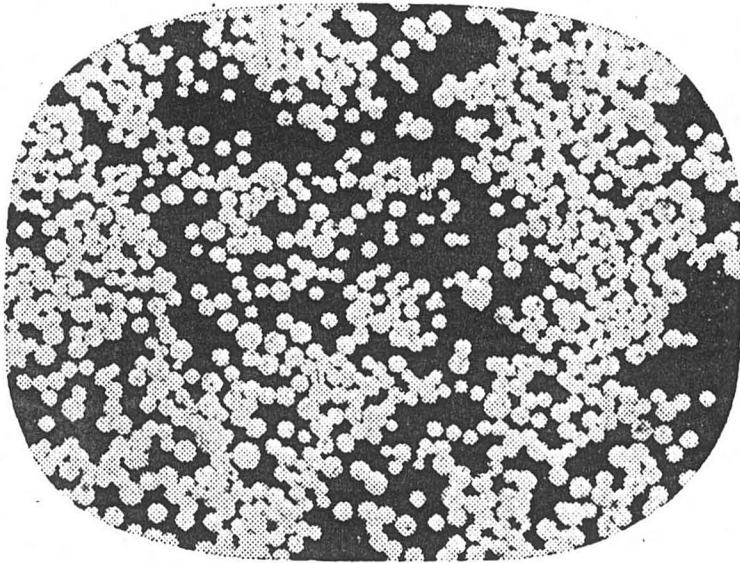


「廃液公害防止に朗報」

江川熊大教授が開発

工場廃液に含まれる有機水銀を取り除くのに、きわめて高度な吸着性能を持つ合成樹脂が開発されて、関係者の間で非常な関心と注目をあびている。開発したのは、熊本大学工学部工業化学科の江川博明教授(53)で、これまでに市販されている同じような吸着樹脂に比べると、数倍以上の有機水銀吸着性能があるという。



有機水銀を吸着するキレート樹脂(大きさは
0・25mm×0・5mm程度)

有機水銀など吸着

キレート樹脂 従来の数倍の性能

江川教授はイオン交換樹脂(繊維)の研究のあと五、六年前からキレート樹脂の研究を始

め、文部省の科学研究費を受けてこの数年「有機水銀吸着性樹脂の合成と工場廃液中の有機水銀の除去」をテーマに実験研究を進めていた。

問題の毒性能の有機水銀吸着樹脂はこの研究から生まれたもので、その正体は「キレート生成基」をもっている合成樹脂。このキレート樹脂は溶液中の特



江川博明熊大教授

定の金属イオンと非常に結合しやすい性質をもっており、このキレート樹脂を水に溶けないように処理して、同樹脂を充てんした塔の上から廃液を通すと廃液中の有機水銀を吸着する。

このキレート樹脂は有機水銀に限らず、無機水銀、カドミウム、亜鉛などの有害金属イオンも取り除くことが出来るため、有機水銀以外の工場廃液による公害防止にも、大きな朗報をもたらすものとみられている。